

2020 くすのき

VOL.31

樟 樹

樟樹会 新居浜西島尋常学校同窓会

校内こんなところ(こと)ご存知ですか？

● 第15回 ●

今回は定時制についてご紹介します！

新居浜西高等学校には、定時制があることをご存知ですか。

新居浜西高等学校定時制は、昭和23年6月25日に県下最初の定時制高等学校として発足しました。

本館1階に定時制の職員室があり、(令和2年度は)本館の2階と3階が定時制の教室(全日制2年生と共用)となっています。

定時制では、家庭的な雰囲気なかで、自分に適したペースで高校生活を送ることができます。また、進路に応じた科目選択や個別指導が適切に行われ、進学への道も開かれています。さらに、「開放講座」では、幅広い年齢層の社会人受講者との交流もできます。



校内生徒生活体験発表大会

本校定時制の特色は、主なものとして3つ挙げられます。

① 単位制の採用

単位を積み重ねて、74単位以上になると卒業できます。

② 2学期制の採用

1年を前期(4月～9月)・後期(10月～3月)の2学期に分け、半年ごとに単位を取っていきます。(一部は例外あり)

③ 3年で卒業可能

本校定時制だけの学習では4年かかりますが、本校の授業以外に、他校通信制の授業を受けたり、学校間連携により他校で授業を受けたりすることで単位を修得できます。また、高等学校卒業程度認定試験において、本校で開講されている科目以外の試験を受けて合格すれば単位が得られます。

それらの単位数を加算することで、3年で卒業することもできます。



修学旅行

このように、自主的な科目選択により自分に合った学習ができます。

【主な行事】

- 新入生歓迎レクリエーション
- 遠足(前後期、年2回)
- 生活体験発表大会(6月校内、9月東予地区予選、10月県大会)
- 修学旅行(2・3年次生が参加、隔年実施)
- 秋季大運動会
- 定通制高等学校総合体育大会



全国高等学校定時制通信制体育大会



秋季大運動会

会長挨拶



樟樹会会長
のお
妹尾次郎

昭和55年卒

新居浜西高同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、樟樹会活動に格別のご理解とご協力を賜りまして、誠に有難うございます。心より厚く御礼申し上げます。

本来であれば今年は2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本だけでなく世界中が大いに盛り上がりつつあるはずなのですが、新型コロナウイルスの世界的流行のために残念ながら来年へと延期されました。日本国内においても、4月に緊急事態宣言がなされ収束に向けて国民全員が一丸となって懸命に取り組んでいるところですが、なかなか収束の見通しが立っておりません。

当然のことながら西高の学校生活にもこの影響が出ております。今年の3月1日には、予定通り卒業式が挙行され、281名の生徒が学び舎を巣立っていきましたが、卒業式そのものは簡素化され、来賓及び祝辞も最小限に抑えられ、在校生は教室で待機し、中継映像によって卒

業生を送るといふ異常な状態での卒業式でした。そして、予定しておりました「50年目の卒業式」もやむなく中止となり、昭和45年卒業の先輩方を来賓としてお迎えすることが叶いませんでした。取りまとめにご尽力いただきました幹事の方、ご出席予定の方々には、大変ご迷惑をお掛け致しまして、誠に申し訳ございませんでした。また、4月8日の入学式では、新たに290名の後輩たちが仲間入りしましたが、卒業式と同様に時間短縮と簡素化が図られた式となり、私も出席が叶いませんでした。その後、学校行事全般にわたり大きな影響が出ております。

また、樟樹会活動にも影響が出ております。6月に予定されておりました東日本樟樹会総会が中止、7月に予定されておりました近畿くすのき会総会は延期となりました。2年に1度開催している松山樟樹会総会が、昨年の11月に盛大に開催されたことは何よりでした。一方、8月1日に予定しておりました本部の総会は、何ととしてでも実現しなかったのですが、現在の状況を鑑み止むを得ず中止とさせていただくことになりました。楽しみにされていた方も大勢いらっしゃると思いますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

この度の新型コロナウイルスの影響は、はかり知れないものがありますが、世界人類の英知と努力によって必ずや収束の日を迎えることを強く信じております。そして、皆様と笑顔で再会できる日が一日も早く訪れますことを心よりご祈念申し上げますと共に、今後とも樟樹会に対しまして変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

(5月に記す)

トピックス

瀧山大氏(昭和59年卒)の 遺作(長編小説)が母校の図書室に

作者は、平成元年早稲田大学文学部を卒業し、勁文社(出版社)に入社、バブル崩壊後退社してルポライターとして独立しましたが、平成24年4月(46歳)肺癌で亡くなりました。生前『世界は何度でも生まれ変わる』と神は言った』を書き溜めていました。友人数が故人を偲び、これを手作りで3部だけ本にしました。しかし、お父様は出版社から発行してやりたいと願ひ、手を尽くされましたが、次回作が期待できないという理由で実現せず、自費出版することにし、友人の協力(構成等)を得て令和元年10月に発行されました。



10月23日、お父様の瀧山一甫氏が校長室を訪れ、玉井校長に上・下各2部を寄贈されました。同日、新居浜市立図書館、愛媛県立図書館にも寄贈されております。

本書は、主人公片桐大河の高校時代の回想など、随所に新居浜弁で書かれており、上下で1000ページ近くありますが、一気に読める大作です。

(記 編集委員 近藤博司)

生

にわたり活躍されている
するコーナーです

介

Profile

昭和58年 新居浜西高等学校普通科 卒業
 昭和58年 日本大学経済学部 入学
 昭和62年 株式会社パソナグループ 入社
 平成16年 株式会社パソナ 上場時に執行役員就任
 平成19年 株式会社パソナフォスター代表取締役社長に就任
 平成29年 株式会社パソナグループ 女性活躍推進担当
 執行役員に就任(兼任)
 東北福祉大学非常勤講師も務める



ながはた くみこ

長畑 久美子
(旧姓 大西)

「変化の中で生きる」 「新居浜と東京を繋ぐ原点」

西高を卒業し、既に30年以上が過ぎました。それでも、新居浜に帰省する度、夏休みに暑さと闘いながら友達と廊下で勉強していたり、文化祭や運動会に打ち込んだりしていた西高での思い出が蘇ります。

私は西高在校時、目的を持ち都市部の大学進学を選んだ先輩方や同級生から多くの刺激を受けました。都会への憧れを抱き、私も東京に進学。その後東京で過ごしてきました。西高にいなければ違う人生を歩んでいたかもしれません。今の私の原点は西高にあります。

大学を卒業後、私は今の会社に就職しました。女性は一般職で寿退社は当たり前の時代に、輝いている女性が多く男女関係なく挑戦の機会があったのが入社したきっかけです。与えられた仕事を主力で取り組み、先輩や同僚からの支えで気づけば30歳で新規事業の責任者や新会社の社長になっていました。その頃から、自分が実現させたい世の中はどういったものだろうと考え始めました。

その後、保育や託児の施設運営や人財育成を行なうパソナフォスターの社長に。自分の使命を感じ、「社会みんな子育て」ができる世界を実現したいと思うようになりました。日本初の企業内保育所も開設。親や地域、会社、あらゆる人たちが子供た

ちの成長に関われる社会の実現を目指そうと走り続け、気づけば就任以来13年で単体1,500人の規模になっていました。

大切な社員の仲間と会社の規模を大きくしていく内に、私は「働く場所と住む場所を限定しなくてよいのでは」と考えるようになりました。

子供たちを預ける親御さんは朝早く電車に乗り保育所や託児所に立ち寄り、夜疲れた体で子供たちを迎えに来ます。また、子育てと両

立しながら働くパパママ社員が多いです。もし働く場所にとらわれない働き方を進められるなら、自然の中で仕事をしたり、地域活

動や留学等しながら仕事をしたり、そして子供たちと寄り添い自宅にいながら仕事をしたりしてもよいのでは、と思うようになりました。

そのような新しいライフ・ワークスタイ



ルをなんとか実現したい、と考えていたところに、新型コロナウイルスの危機に直面しました。「移動をしない」をテーマに経営をするという初めての挑戦。一気にテレワークが本格稼働しました。グループ1万人の社員を預かる役員として、私はその先頭に立つていかななくてはと気持ちを新たにしています。

デジタル革命を経た現代、情報は世界中から瞬時に取れ、自分がバーチャルに移動することも可能になりました。移動や時間の使い方への価値変化でどこにいても働ける時代。次世代の保育環境の在り方をはじめ、「生きる」「働く」の多様化が進み、会社が変わっていく。そして、大学、次いで高校の在り方も変わっていくでしょう。

だからこそ、都会に行き失われた感性も取り戻さなくては、とも私自身思っています。仕事に夢中になると壮観な夜空や虫の声が感じられなくなります。東京でコンクリートに囲まれながら仕事をしていると失われていく感性。そういったものこそ、自由に移動する権利、移動しない権利を両方必要とされるこれからの時代に大事です。自分の原点を忘れないよう、蟬の鳴き声に感動する西高卒業生であり続けたいと思っています。

*2020年12月まで愛媛新聞の日曜1面コラム「道標」で5週に1度連載をしています。よろしければご覧ください。

同窓

文化面、産業界など各界
同窓生をご紹介

紹介

『お品書き』

このような場に原稿を書けと言われることになったのは、僕が娘にお弁当を作り、毎日A4の用紙にお品書きと呼ぶ『手紙のようなもの』を一緒につけていたためです。

2人の娘と僕との3人家族。娘2人は僕の母校でもある西高に入学しました。お弁当ライフのスタートです。上の娘は祖母に作ってもらいました。僕のお弁当は拒否(笑) 当たり前ですね。僕は料理出来ませんから。

二女に言いました。「パパが弁当を作るよ」当然、「要らない」という答えが返ってくるはずでしたが、「あ、よろしく」との返事。

その答えで僕の3年間のお弁当制作は始まったのです。

1日目。ひどい弁当が出来上がりました。色は悪いし、冷凍食品だらけ。詰め方にセロシの欠片もないお弁当。それでも、娘は残さずに食べてくれました。そして、その弁当箱を見たとき、僕は嬉しく思ったのです。

「何かちよつとだけ工夫してみよう」そんなことを思った僕は、友人と酒を飲みながら話しました。そこで浮かんだアイデアが『お品書き』を付けてみよう、ということでした。

はじめは本当にお品書き。卵焼き、ウインナー等入っているものを書いたものを付けました。娘は記念すべき1枚目は教室の

ごみ箱に捨ててしまったそうです。2日目、3日目と続けるうちに、持って帰ってくれようになりました。そして、いつしか僕と娘とつてかけがえのない紙に変わってきたのです。

昨日の出来事、ちよつと怒ったこと、今の流行、ドラマの話。毎日毎日取り留めのないことを書いてはお弁当に添える。たつたそれだけのことなのですが、「クラスで数人が読んでるよ」「今日のお品書きは面白かった」など、感想を言ってくれるようになりました。

読んでいるときに僕は居ないので、少々恥ずかしいことも書いてしまいます。伝えたい大切なことも書きました。ほんの少しでも頭に残ってくれればいいと願いながら。

娘と僕は、元々仲は良かったと思います。しかし、このお品書きが強めた絆は、広く深く、信頼につながっていると感じます。正面から向き合うことが難しい親子関係ですが、書いて渡す。というワンクッションがあるだけで、より多くのことを伝えることが出来ます。

僕のお品書きを見たことが無い方には、ピンとこない話だったでしょう。

正直、僕もどう伝えたらよいかわかりません。しかし、この短い文章で僕が伝えられることは、『言わなくてもわかる』のも大切だけど『ちゃんと伝える』ってことはもつと大切だということ。そして、毎日繰り返すことは、継続していけば、自分が思ってもみなかったような成果を生んだり、形を変えて喜ばれることもあるということくらいです。

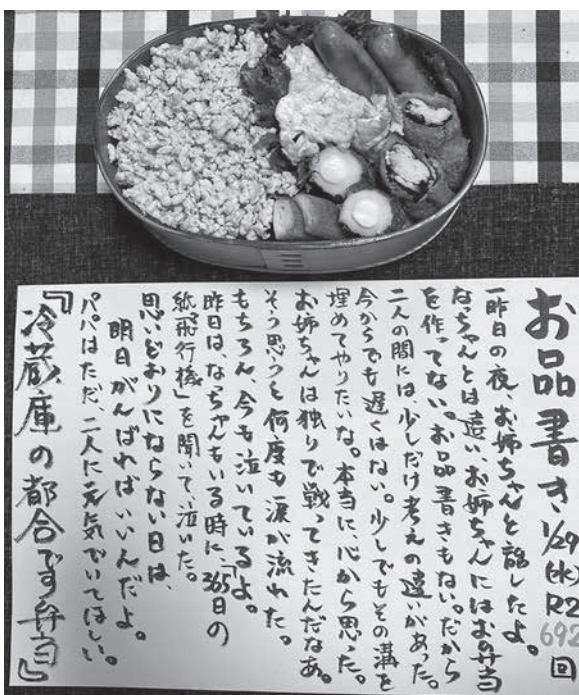
僕のお品書きは、ちよつとしか上達しませんでした。しかし、3年間続けたお品書きは、僕と娘をつなぐ絆に変化しました。本当に3年間素晴らしい時間を過ごせたことを、娘に感謝したいと思います。



あおの たいすけ
青野 泰介

Profile

平成元年 新居浜西高等学校普通科 卒業
平成元年 甲南大学経営学部経営学科 入学
平成5年 同 卒業
平成5年 伊予銀行 入社
平成7年 同 退社
平成7年 株式会社アオノメガネ 入社
平成23年 青野泰介行政書士事務所 開所
現在に至る



の 歩 み

一人はみんなのために

サッカー部主将 安村 響祐



サッカーは11人で、個々の能力と、戦術などの組織的な力が合わさったチーム力で相手と競い合います。個々の能力が高くても組織的な力がなければ勝つことができません。つまり、個人として傑出した選手がいなくても、組織的な力が強ければ、強豪校にも勝つことができるのです。

チームが得点したときは、得点した選手に注目が集まるのはあたり前ですが、得点に至るまでに体を張って守り、必死にボールを繋いだ仲間がいます。毎日の活動で、お互いの癖や考えを把握し、信頼し合っている仲間と共にパスを繋いで、ゴールが決まった瞬間は最高です。だから、皆で喜ぶのです。また、体力的に厳しくなってきたときに、走るのを止めてしまうと、他の仲間に大きな負担をかけてしまいます。「チームのために走る」という気持ちが最終的に勝敗を分けます。

これらが、サッカーの面白さであり、難しさでもあると思います。僕は、西高サッカー部の一員として活動していく中で、チームの力になるためには能力以前に「人間性」が重要だと実感しました。

西高サッカー部は、マネージャーを含め約60人で、県大会で上位に勝ち進むことができる「強いチーム」を目指し、顧問の近藤先生、藤田先生のご指導の下、毎日の練習に取り組んでいます。しかし、重要な大会では思うような結果が出せず、何度も自分たち

には何が足りないのかを考えました。僕たちが目指す「強いチーム」になるには何が重要なのか、日々の練習に真摯に取り組み・時間を守る

・道具や設備を大切に
・挨拶など、礼儀をしつかり守る
・挙げようとするべききりがありません。しかし、全てのことを踏まえていうことができるのは、「当たり前」のことに当たり前にする」

です。極めて当然のことですが、強いチームになるためには、細部に至るところまで意識しなければいけません。

部活が厳しかったことを言い訳に勉強を疎かにしていないか、練習では細かいところまで意識して取り組んでいるか、練習後はグラウンド整備など責任を持って片付けができていくか。結局は一人ひとりの人間性が何よりも重要だと気付きました。人間性が、人から信頼されるか、されないかを左右し、その人からの信頼が自信に変わるのだと思います。これまでに活動してきて、やるべきことがしっかりとできていく時は、個人としても調子が良く、チーム内でそういった人が多い時はチームの調子が良いと実感しています。

「環境が人をつくり、人が環境をつくる」という言葉があります。良い環境にしなければ、良い人間は育ちません。だから、西高サッカー部の一員として、自分に何かできることを探し、役割を見つけて、チームに貢献する。技術が未熟で

も、それができればチーム内での価値が高まる。そうして、チームは強くなっていく。サッカー部は人数が多い分、全員が同じ方向を向くのは難しいですが、自分自身もチームも成長するために、普段から一人ひとりがチームのために行動していきたいです。

最後に、新型コロナウイルスの蔓延防止のため、高校総体が中止となり、僕たちは目標を一つ失いました。ですが、これまでチームメイトや先生方と活動を共にした日々は決して無駄ではなく、間違いなく今後の人生の糧になります。

西高サッカー部は、僕たちを一人の人間として成長させてくれました。サッカーを通じて学んだことを生かし、組織のために何ができるかを探し、役割を見つけ、貢献していきたいです。



部活動

なりたい自分に、なれる放送部

放送部 坂本 美空

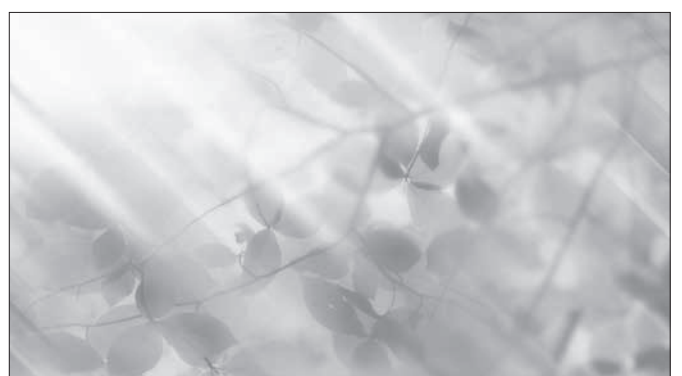
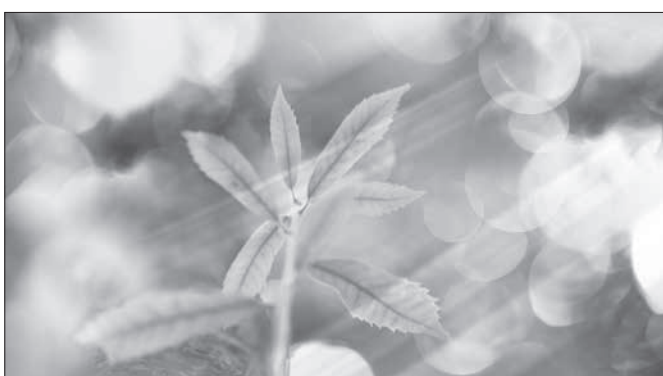


放送部の一日の活動は、朝に校歌を流すことからスタートします。そして、掃除の時間と昼休みには音楽をかけたリ、原稿を読むなどの校内放送をしています。そんな毎日の活動に加えて、西高祭や運動会などの学校行事では、機材の準備やアナウンスも行おうなど、忙しい日々を送っています。

私たち放送部は、3年生4人、2年生4人、1年生4人の計12人で活動しています。日々の校内放送活動だけでなく、様々な大会にも参加しています。NHK杯全国高校放送コンテストや全国高等学校総合文化祭などです。大会では、ドキュメントやドラマなどの番組を制作したり、アナウンスや朗読を発表したりしています。大会の結果としては、11年連続でNHK杯全国高校放送コンテストの全国大会に出場しています。また昨年のNHK杯の全国大会では、テレビドラマ部門では優秀、ラジオドラマ部門では優勝という成績を残すことができました。

私は、放送部の活動を通して「人に寄り添う」ということの大切さを学びました。放送部の活動は、番組にしても校内放送にしても伝えたい・伝えなくてはならないことを人に「伝える」ものです。どのようにしたらもっと分かりやすく伝わるのか、どうしたらもって人の心を動かせるのか。人の心に寄り添って考えなければ、人に伝わるものを作ることはできません。また、放送部では番組を作るにもアナウンスの原稿を作るにも、まず取材をしなければいけません。つまり、取材に協力してくださる人が必要です。取材をするときには、一体どんな質問を最初にすれば答えやすいのか、どのような反応で話を聴けば良いのか、そんな細かいことを相手の心に寄り添って考えます。そうすることで、相手から本音を引き出せたり、自然な表情をカメラに収めたりできます。

放送部は確かに忙しい部活動ですが、その分部長同士の絆も深まる部活動だと、私は感じています。毎日の校内放送活動に加えて、大会の締め切りもあると放送部はかなり忙しくなっています。私自身、とてもやる事が多く心が折れそうになったことが何度もあります。ですが、そんな時に他の部員に「大丈夫？」と声をかけてもらったり、私の仕事を手伝ってもらったりしたことが何度もあり、ずいぶん助けられました。誰かが忙しくて心が折れそうな時は、他の誰かが支える。このように、部活動内でも人の心に寄り添うことの大切さを感じることができました。そして、放送部の活動を通して様々な人と出会うことができました。取材に協力してくださった方々や他校の放送部員など、放送部に入らなければ出会えなかった人たちがたくさんいます。様々な人と出会えたことで、自分の考え方や視野を広げることができました。



ここまで読んでいただいている通り、放送部の活動は、私たち部員だけでは絶対に成り立ちません。顧問の先生方や取材に協力してくださる方々など、多くの人たちの支えがあつて放送部は成り立っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。放送部での経験は、一生忘れられない、かけがえないものだと感じています。これからも放送部の活動をさせていただけると感謝して、残りの活動に精一杯取り組んでいきます。

母校の概況

Nihama-Nishi High School

西高（更なる飛躍へ）



校長 玉井 広志

私も赴任して3年目を迎えました。これまでの2年間は、学校

行事、各種大会、公開授業等で見せる、生徒の真剣な表情、爽やかな笑顔、生き生きと躍動する姿に勇気と活力をもらう毎日でした。今年で創立103年を数える歴史と伝統のある西高で、重点努力

1 「主役でありなさい 決して脇役に回るな」

人は集団に紛れて、自分ひとりぐらい誰も見ていないだろう、適当でいいだろうと、大勢の中に紛れようとする。その瞬間、脇役に回り、安易で、楽な選択をしてしまう。脇役に回る誘惑はどんな人にもある。正しいことは、正しい。間違っていることは絶対に間違っている。正しい判断をすること、西高生として恥ずかしくない生き方を模索して欲しい。

その目標に向けて、「計画」を立てる。「計画のないところに成功はない」という言葉もある。「正しく評価をして成長確認」↓「目標の設定」↓「計画と実践」これを繰り返すと、限りなく豊かな人生を歩むことになる。

今年度も、さらに充実した教育活動を実施したいと考えています。個々の生徒が、どのように社会貢献していくのかを、広い視点で考え行動できる人として飛躍してほしいと願っています。

2 「評価をしなさい」

自分を正しく評価することは重要。自分は以前と比べて何ができようになったか、どこが成長したのか、節目の時に確認をする。そして、次はどうなりたいか「目標設定」をする。さらに、

自己実現のできる生徒の育成に努め、西高に通うことに誇りを持ち、充実した学校生活となるよう教職員一同努力していく所存でございます。今後とも、樟樹会の皆様には、どうか一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

お願い申し上げます。

樟樹会の皆様には日頃から母校に対して格別のご支援・ご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。今年度は、全日制に4年ぶりに定員を満たす280名の新生を迎えて3学年で793名、定時制が10名の新生を迎えて52名となり、全校生徒845名で順調にスタートしています。コロナ禍で不安の中ではありますが魅力的な学校創りを通して、さらに地域に愛され慕われる西高にしていきたいと考えております。

日々成長していく生徒たちに目を細めるばかりです。そんな生徒たちに、私がこれまで語り続けたこと、そして今年度も繰り返し伝えていきたい信念は以下の3点です。

2 「評価をしなさい」
自分を正しく評価することは重要。自分は以前と比べて何ができようになったか、どこが成長したのか、節目の時に確認をする。そして、次はどうなりたいか「目標設定」をする。さらに、

3 「我慢をしなさい」
勉強が特に好きでたまらないワケではないのに西高に通っている時点で「我慢」する道を選択している。学校生活を送る以上、我慢すべきことは山ほどある。鍛えてもらいなさい。強くなりなさい。無理を当たり前にしなさい。何のための「我慢」か。それは社会で通用する、貢献できる人間になるためである。それが、高校で学ぶ最終目標である。「乾いた雑巾は絞れない」、期待され



教職員の異動

《転入》

地公	地公	国語	教頭	教頭	《転出》	業務員	事務	事務	実習助手	家庭	英語	英語	英語	芸術	保体	保体	理科	理科	理科	数学	数学	地公	地公	国語	教頭	教頭	《転入》
村尾	弓立	堤	浅野	五味		渡邊	二神	山西	神野	西岡	稲見	榊田	堀	加藤龍能亮	城戸	近藤	小川	菊池	水元	小池	進藤	尾藤	石川	山内美千代	久保	園部	孝行
淳	克法	元子	尚志	昭秀		一郎	綾女	真央	雄子	里奈	武仁	孝寛	育夫	能亮	雄貴	尚稔	美咲	郁哉	瀬菜	良太	正樹	義久	雄幸	宏樹	孝行		
(新特支)	(丹原)	(松山東)	(今西(分))	(定年退職)		(しげのふ特支)	(新採)	(川之江)	(西条)	(新採)	(新田)	(西条)	(小松)	(松山東)	(新南)	(土居)	(川之江南中)	(新工)	(上浮穴)	(北郷中)	(川之江)	(川之江)	(西条)	(松山南)	(県教委)	(川之江)	

同窓の教職員

近藤	三谷	宮崎	藤澤	塩崎	鈴木	藤田	武智	亀尾	稲見	中川	甲斐	赤壁	地公
尚稔	政史	真紀	真美	美都	一宏	利架	優子	千春	武仁	文生	誠	一彦	赤壁
平成10	平成4	平成3	昭和63	昭和63	昭和58	昭和56	昭和56	昭和53	昭和52	昭和51	昭和50	新平	一彦
保体	保体	国語	英語	英語	保体	英語	英語	事務	英語	数学	数学	(西条)	(土居)
												豊	新平
												(今北(分))	(西条)
												論	優樹
												弥生	小澤
												嘉村	今井
												藤原	今井
												榮二	今井
												佳子	今井
												恵美子	今井
												紘教	今井
												素子	今井
												由美	今井
												政美	今井
												美穂	今井
												徹	今井
												慎也	今井
												(新東)	(新東)
												(県教委)	(県教委)
												(退職)	(退職)
												(土居)	(土居)
												(新田青雲)	(新田青雲)
												(今西)	(今西)
												(丹原)	(丹原)
												(退職)	(退職)
												(東予)	(東予)
												論	論
												弥生	弥生
												小澤	小澤
												優樹	優樹
												佐々木	佐々木
												豊	豊
												(今北(分))	(今北(分))
												(西条)	(西条)
												新平	新平
												吉村	吉村
												赤壁	赤壁
												一彦	一彦
												(土居)	(土居)

大学合格一覧

最近3カ年の総合格者と、大学別合格者の一部を紹介(過年度生を含む)

	30年	31年	元年
国公立大	140	170	136
私立大	337	365	430
北海道大	0	2	0
東北大	0	0	0
東京大	0	0	0
名古屋大	2	1	0
京大	3	2	1
大阪大	4	3	11
神戸大	4	3	2
岡山大	7	16	13
広島大	4	2	4
愛媛大	32	28	44
九州大	1	3	5

年間行事予定

新型コロナウイルスの影響で大幅変更の可能性あり

3	2	1	12	11	10	9	8	7	6	5	4	月									
19	1	24	16	8	18	26	14	6	29	3	26	31	25				8	日			
3学期終業式	全日制卒業式・定時制卒業式	学年末考査(3月3日)	大学入学共通テスト(17日)	3学期始業式	2学期終業式	2学期期末考査(12月2日)	定時制運動会	県高校総合文化祭(15日松山市周辺)	2年生修学旅行(9日)	2学期中間考査(9日)(1・3年生)	2学期中間考査(10月2日)(2年生)	定時制・通信制県総合体育大会は中止	運動会	2学期始業式	1学期終業式	1学期期末考査(7月1日)	西高祭は中止	県高校総合体育大会は中止	P.T.A総会は中止	全日制入学式・1学期始業式・定時制入学式	
																					行事

お知らせとお願い

今年度の総会・懇親会は中止となりましたが、来年度は、皆様と再会出来るのを心より祈念しております。今年度に、同期会開催を企画し、実施、もしくは延期となった会員様からの情報提供を、同窓会事務局までいただけますようお願いいたします。



日本一を目指した会報「樟樹」 下村、世良両会長の想いを形に

初代編集委員長 武田 信之（昭和28年卒）

同窓会誌「樟樹（くすのき）」は、平成2年7月17日に創刊。令和元年に30号を発行。この節目に、創刊のいきさつを振り返ってみた。創刊時の同窓会は世良誠朗会長で、下村隆男前会長を含む9人の編集委員が任命された。

誌形式はなかった。

内容は、会長あいさつ、行事予定と報告、決算報告、わずかな会員の投稿で、写真はあっても会長の顔写真か母校の建物の写真程度だった。

同窓会・母校・新居浜市の動向を

下村前会長は、創刊号に次のように書いている。「私が会長時代に、東京、大阪、松山の各支部設立のお願いに参上した時、故郷のこと、母校の現状を知りたいとの希望が多かった。すぐにでも会報を出版しなかったが、記念事業に多忙を極め、できなかつた。世良会長のもとで立派な会誌が発行され、心からお喜びを申し上げます。」

世良会長は、創刊号の発行に当たって、「編集委員のみなさんには『日本一』の同窓会報」を作ってもらいたい。みなさんが力を合わせれば必ず実現できます。」と話された。

全国から10数点の同窓会報が集められていた。すべてモノクロでカラー印刷はなく、大きさはB5判かタブロイド判（普通の新聞1ページの半分の大きさ）で雑

誌形式の中身の検討に入る。何を盛り込むか。編集委員がブレインストーミング方式でアイデアを出し合った。会長のあいさつ、同窓会のすすむ方向、同窓生の動向、支部の動き、同期会の様子、在学当時の思い出、母校の様子、在校生の活躍、クラブ活動、進学の現状、新居浜市の街の様子など多岐にわたった。

意見を集約すると、「同窓会の動向・同窓生の消息」「母校の動静・在校生の現状」「新居浜市の現状と未来像」の3つに分類できた。

雑誌型で表紙カラー印刷に決定

ここまで検討してきた内容を盛り込むには、雑誌型でそれなりのページが必要なことから、体裁は雑誌型に決まる。大



左側は創刊号、右側は8号の表紙

表紙はカラーに。これは編集委員の一致した意見だった。同時に誌名は、同窓会の『樟樹会』（くすのきかい）に合わせて『樟樹（くすのき）』とすることになった。

表紙の題材は、一貫したテーマを持たせることに。具体的には、同窓生の目と心に強く焼き付いていて、校章にも使われている『一宮の杜の大樟を！』で意見が一致。創刊号の表紙には、「雨上がり朝日に輝く一番樟」の写真が掲載された。

こうして、『樟樹』が誕生した。が、今日の素晴らしい、名実ともに「日本一」を誇り得る同窓会誌は、その後の編集委員長と編集委員のご努力の賜物である。

編集委員長は、武田が1号、2号を担当し、3号から5号は安藤正純さん（30卒）、6号から30号までの25号は近藤博司さん（44卒）が務められた。後継の編集委員長と編集委員のみなさんのご努力が、今日の『樟樹』を作り上げた。適当な時機に、その物語をお聞かせいただくことを、心から願っている。

きさは、当時の市販の週刊誌にならってB5判に。

雑誌型の場合、中綴じにする必要があり、ページ数は4の倍数または8の倍数とすると印刷効率がよいことから、16ページ建てとした。

これらを含め、「日本一」を目指すには、

新居浜の動き

Hello!
NEW

新居浜

「災害に強いまちづくり」を目指して

「新居浜市防災センター」オープン

近年、全国的にも、台風などによる風水害や、大地震などの大規模災害が毎年のように発生しています。

このような大規模災害発生時において、一刻も早い市民への災害情報の伝達と避難体制の確立を可能とする、災害対策本部機能及び消防本部機能を有する新居浜市消防防災合同庁舎が3月に完成しました。

南海トラフなどの大地震クラスの地震にも耐えうる基礎免震構造を採用した庁舎には、消防や上下水道などの災害発生に迅速な対応を必要とする危機管理部門を集約するとともに、市民一人一人が災害から身を守り抜くことをテーマとして、自分に関わる災害を知り、災害を疑似体験して災害対応力を身につけることができる新居浜市防災センターがオープンしました。

防災センターには、実際の災害を想定した体験や学習ができる8つのコーナーがあり、

VR(バーチャルリアリティ)コーナーでは、ゴーグル型のヘッドセットを着装し、オリジナルの3D映像で、火災・水害の疑似体験を行うことにより、災害前にできる備え、災害後の対応を学ぶことができます。

このセンターの目玉は、地震・水害体験コーナーです。6台のプロジェクターにより、180度スクリーンと足元に映し出されるCG映像に連動して、地震さながらに揺れる起震装置や実写映像とCGや効果音を組み合わせた臨場感のある地震・土砂災害を疑似体験できます。このコーナーは、近隣の類似施設にはない設備となっています。



災害情報展示コーナーとVR体験の様子

そのほか、大型タッチパネルによるハザードマップの検索、通報体験、消火体験、煙避難などが体験できます。

また、体験するだけでなく、防災に関する資料及び装置の展示や各種講習会や講演会の開催も予定されています。

なお、小中学生に防災センターを防災教育の一環として活用してもらい、体験したことを学校や地域で災害時の対応について発展的に学んでもらうことも期待されています。

開館時間

9時～17時

休館日

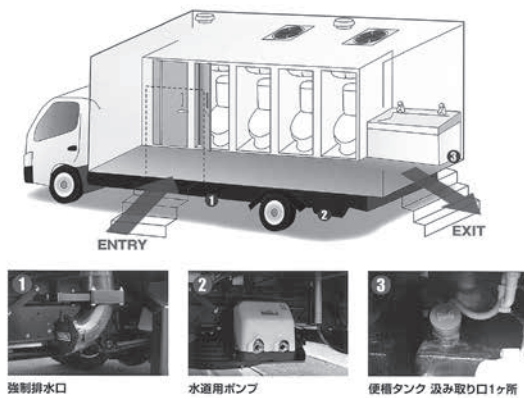
毎週月曜日・火曜日、年末年始

(12月29日～1月3日)

問合せ 新居浜市危機管理課

0897-3115017

「災害時対応型移動式トイレ車」導入



備えあれば憂いなし

大規模な自然災害が多発する我が国において、災害時の排泄の問題が重要視されています。

災害によって、上下水道などが不通となり、避難所等で水洗トイレが使用できず、避難された方々の健康被害が発生しています。

このようなことから、災害時対応型移動式トイレ車を今年度購入する予定です。

「住友山田社宅」を登録有形文化財とするよう答申される

国の文化審議会は3月19日、星越町にある住友山田社宅の6棟8件について、国の登録有形文化財とするよう文部科学大臣に答申しました。答申後に行われる官報告示を経て、



住友山田社宅の中でも最も規模の大きい別子鉱業所長社宅

正式に登録される見通しとなりました。住友山田社宅は、JR新居浜駅の西約2kmに位置する住友各社の社宅群で、昭和4年に開発が始まりました。現住友金属鉱山(株)の常務取締役だった鷲尾勘解治が、良好な住環境と高水準の郊外住宅を目指した幹部社宅です。東西約900m、南北約200mの約18haに最大290戸があったとされ、新居浜の工業都市としての発展を象徴する場所の一つです。特徴は、どの家にも生け垣があり、風通しをよくするため、東西に長く、南北に短く建てられていることです。

今回、登録されるのは、旧住友鉱業(株)(現住友金属鉱山(株))別子鉱業所長社宅の主屋・応接棟・茶室、旧住友別子鉱山(株)(同)の外国人技師東社宅・外国人技師西社宅、旧住友化学工業(株)(現住友化学(株))幹部社宅、旧住友共同電力(株)の幹部社宅と監査役社宅です。

今後、新居浜市は、市と住友グループの発展の原点であるこの地を、共存共栄の証として、大切に保存するため、令和3年3月の一部公開を目指し、社宅群の整備を進めていく予定です。



還暦を迎えての同期会

第4回1979年卒大同期会代表幹事 藤田 憲明（昭和54年卒）

5年前の平成27年1月3日に開催された第3回1979年卒大同期会もまもなくお開きとなろうかという時に、当時の代表幹事の「次の第4回大同期会の代表幹事を誰かやってくれる人はいませんか？」との投げかけに、元クラスメートの一人が私の名前を大きな声で連呼し、（自分でなければ誰でもいいという心理から？）賛同の拍手が沸き起り、その場の盛り上がりには水を差すこともできず、また地元で公務員をしている身でもあり、代表幹事を期せずして引き受けることになってしまいました。引き受けた直後は、代表幹事なんて

断ればよかつたのにと後悔し、果たして自分が代表幹事として次の大同期会を取り仕切れるのかという不安に襲われましたが、何年も先のことで、日々の仕事や生活のなかで、大同期会のことでも自分が取り仕切らなければいけない立場であることも、いつしか忘れ去り、4年と半年が過ぎようとしていた昨年6月、ある友人が私の職場にやってくる、「憲明、そろそろやるんじゃないん？」の一言で、忘れていた自分の立場を思い出し、第4回大同期会の開催に向けて準備を始めました。

まず、市内在住の同期生10人ほどが集



まり、日程と場所を令和2年1月3日、17時30分から、リーガロイヤルホテル新居浜において開催することを決め、その場でホテルを予約しました。また、同期生への案内

については、それぞれのクラス幹事がLINEや電話、メールなどで出欠を確認し、それを私に連絡して集約するということになりました。その時点で、「本番まで6か月しかない。」と考えるか、「まだ6か月もある。」と考えるかですが、残念ながら私は、子どもの頃から、夏休みの宿題を休みの最終日に泣きながら何とか仕上げた後者の人間でしたので、ほとんど何もしないまま3か月が過ぎ去り、太鼓祭りのシーズンになってしまいました。あるクラスの幹事から、LINEやメール、実家を通しての確認等で、元のクラスメート45人中44人の出欠の確認をすでに完了しているとの情報を聞いて、さすがに心配になり、LINEなどのSNSについて関心がなく知識もないので、詳しい幹事に幹事のLINEグループと西高同期会のLINEグループを作成してもらおうとともに、住所が名簿登録されている約220人の同期生に、往復はがきを発送しました。それからは、往復はがきの返信や同期会のLINEグループでの呼びかけ等で、最終的に76名の同期生が出席してくれることとなりました。

ました。そして、何より懐かしい友人との再会と語り合いの楽しい時間はあつという間に過ぎてしまい、一次会はお開きとなりました。

当日の進行や余興、準備物などについて、いろいろと情報提供やアドバイス、協力をいただいた同期生、次の代表幹事を引き受けてくれた西原さん、会場のリーガロイヤルホテル新居浜のスタッフの皆さん、西高同窓会事務局の今井さん、すべての人から心より感謝申し上げます。

追伸

当日は、同期生の実妹で西高の2年後輩でもあるプロのジャズボーカリスト瀬戸カオリさんの迫力のあるステージを堪能し、創立100周年記念に西高放送部が制作したDVDを楽しく拝見させてもらいました。その場で、残念ながら私は、子ども頃から、夏休みの宿題を休みの最終日に泣きながら何とか仕上げた後者の人間でしたので、ほとんど何もしないまま3か月が過ぎ去り、太鼓祭りのシーズンになってしまいました。あるクラスの幹事から、LINEやメール、実家を通しての確認等で、元のクラスメート45人中44人の出欠の確認をすでに完了しているとの情報を聞いて、さすがに心配になり、LINEなどのSNSについて関心がなく知識もないので、詳しい幹事に幹事のLINEグループと西高同期会のLINEグループを作成してもらおうとともに、住所が名簿登録されている約220人の同期生に、往復はがきを発送しました。それからは、往復はがきの返信や同期会のLINEグループでの呼びかけ等で、最終的に76名の同期生が出席してくれることとなりました。

当日は、同期生の実妹で西高の2年後輩でもあるプロのジャズボーカリスト瀬戸カオリさんの迫力のあるステージを堪能し、創立100周年記念に西高放送部が制作したDVDを楽しく拝見させてもら

ました。そして、何より懐かしい友人との再会と語り合いの楽しい時間はあつという間に過ぎてしまい、一次会はお開きとなりました。

当日の進行や余興、準備物などについて、いろいろと情報提供やアドバイス、協力をいただいた同期生、次の代表幹事を引き受けてくれた西原さん、会場のリーガロイヤルホテル新居浜のスタッフの皆さん、西高同窓会事務局の今井さん、すべての人から心より感謝申し上げます。

追伸

大同期会から2か月後の3月初め、クラス幹事の中でも中心的な存在で今回の大同期会の開催に貢献していただいた石川悦子さんの突然の訃報に接し残念でなりません。心からのご冥福をお祈り申し上げます。



本部だより

今だからこそ同窓会活動で出来ること



同窓会活動の拠点となる「同窓会事務室」は、母校の記念会館内にあります。と前号で紹介しました。「隣の部室から聴こえる吹奏楽部の奏でる演奏や、生徒たちの賑やかな様子から、元気をもらえらるというおまけ付きです。」とも。当然これからもこのような情景がいつまでも続くと思っていました。けれども今は非日常の毎日。満開の桜は葉桜となり、藤棚や、つつじはいつにも増して見事に花を咲かせています。が、生徒さんの姿が見えない日々が続きます。一刻も早くあの日常に戻ってほしいと切に願うばかりです。



昨年、6月の西高祭で、チャリティーバザーを開催して生徒会を支援し、8月の総会・懇親会では、恩師の方々や、老若男女の会員が集い、賑やかで楽しい宴を催すことが出来ました。いつもと変わらない皆様のお元氣なご様子に安堵し、「また1年後にお会いしましょう。」と思つたものです。ただ、3月1日の卒業式では、50年目の卒業式に昭和45年卒の会員がご招待を受ける予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、ご参加は出来ませんでした。今年度に入ってから、例年どおりの事業を遂行することが困難となり、会合もままならない状態が続いています。そして総会・懇親会の開催は中止となりました。そのような中でも、平常心を保ち近い将来必ず日常が戻ることを信じて、同窓会員の心の拠り所となるように、「同窓会事務室」で活動を続けます。(5月に記す)

令和2年度 事業計画 (案)

月日	会合名	内 容
3月27日	樟樹編集委員会	「樟樹」31号印刷所承認・概要相談
4月7日	会計監査	令和元年度会計帳簿類
4月13日	樟樹編集委員会	「樟樹」31号原稿依頼先および担当者決定
4月20日 (18時開始)	第一回常任理事会	令和元年度 事業報告 令和元年度 会計決算報告 令和元年度 会計監査報告 令和2年度 役員改選 令和2年度 事業計画案 令和2年度 予算案 令和2年度 総会・懇親会開催準備について その他
4月20日 (19時開始)	第一回理事会	第一回常任理事会と同内容
4月27日	樟樹編集委員会 (在任にて編纂作業)	原稿持寄り・ページ構成・レイアウト打合せ
5月11日	樟樹編集委員会 (在任にて編纂作業)	前回分校正・第2次原稿持寄り
5月25日	樟樹編集委員会 (在任にて編纂作業)	校正
6月10日 (18時開始)	第二回常任理事会	樟樹会会則の変更について その他
6月10日 (18時半開始)	第二回理事会	第二回常任理事会と同内容
6月12日	樟樹編集委員会	最終校正
開催中止	西高祭支援	チャリティーバザー 模擬店出店 西高どら焼き等販売
7月15日	「樟樹」31号発行	
開催中止	総会・懇親会	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため
令和3年 1月下旬	第三回常任理事会	令和2年度の反省及び令和3年度の予定 同窓会入会記念品及び同窓会費について その他
令和3年 1月下旬	第三回理事会	第三回常任理事会と同内容
2月下旬	同窓会入会式	新会員へ入会記念品贈呈
3月上旬	同窓会賞授与 50年目の卒業式	卒業式にて授与(全日制 定時制 若干名) 50年前(昭和46年)の卒業会員を招待
備考	東日本樟樹会総会 近畿くすのき会総会 松山樟樹会総会	今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため中止 今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため延期 令和3年度開催予定

上記の内容は状況により変更する事があります

令和元年度 樟樹会一般会計収支決算書

平成31年4月1日～令和2年3月31日

項 目	元年度予算額	元年度決算額	備 考
前年度繰越金	1,968,312	1,968,312	
収入の部			
入会金(全日制)	2,583,900	2,570,700	779人×3,300円
入会金(定時制)	188,100	158,400	16人×9,900円
雑 収 入	10,000	4,514	会員名簿販売 預金利息
運 営 会 費	1,500,000	1,302,000	運営会費 209件 1口 3,000円から 賛助会費 54件 1口 10,000円から
収入合計	6,250,312	6,003,926	
支出の部			
会 合 費	500,000	296,333	理事会・総会補助
慶 弔 費	50,000	30,000	饗別・香典他
人 件 費	1,440,000	1,440,000	賃金
事 務 費	50,000	93,320	パソコン周辺機器保守点検契約料他
事 務 機 器 費	0	155,650	ノートパソコン購入設定一式
支 出 費			
同窓会賞	15,000	16,500	全日制2名 定時制1名
入 会 祝	312,400	284,372	全日制・定時制 卒業生へ記念品
支 部 へ の 補 助 金	60,000	80,000	各支部総会懇親会 お祝い金
旅 費	130,000	130,000	各支部総会懇親会出席のため
生 徒 へ の 補 助 金	500,000	560,000	全国大会出場補助
その他の事業費	100,000	92,481	高校野球大会広告料 50年目の卒業式経費
通 信 費	200,000	260,362	電話代 郵送切手・葉書代
雑 費 ・ 予 備 費	300,000	367,904	振替加入口座手数料負担他
周 年 事 業 積 立 金	500,000	500,000	特別会計へ(3回目)
次 年 度 繰 越 金	2,092,912	1,697,004	
支出合計	6,250,312	6,003,926	

近畿くすのき会

第24回近畿くすのき会総会・懇親会

近畿くすのき会は令和元年7月6日、大阪第一ホテルで第24回総会と懇親会を開催しました。来賓として樟樹会本部より妹尾会長、畑田前会長、母校の玉井校長、渡辺教諭をお招きし、総勢70名を超える賑やかな同窓会となりました。平成30年の第23回総会は、西日本豪雨の影響で、多くの会員の出席がかなわず、2年ぶりの再会に喜びをかみしめ旧交を温めました。

総会では、宮崎副会長の開会の辞の後、妹尾会長、玉井校長が祝辞を述べられました。総会に続き、第57次南極観測隊に参加された渡辺浩志教諭に「南極の自然と観測隊の任務」をテーマに講演して頂きました。

平成27年12月から約4カ月にわたって、南極の昭和基地に滞在され、基地での生活の様子や西高生と結んだ「南極授業」のエピソードを披露されました。懇親会では、恒例となった「参加者インタビュー」が行わ



本部だより

れ、マイクを向けられた皆さんが新居浜、母校への思いを口ぐちに語り盛況でした。

令和2年に開催を予定していた第25回総会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、残念ながら延期せざるを得ませんでした。次回は、令和3年7月3日に大阪第一ホテルで総会開催を計画しています。この災禍が一日も早く収束に向かい、来夏にはお互い元気な笑顔で再会できることを祈念しています。

記 近畿くすのき会幹事 入江 智美
(昭和58年卒)

松山樟樹会

第12回 松山樟樹会総会・懇親会

松山樟樹会総会は、今回より2年に1度の開催となり、第12回総会は、令和元年11月2日(土)東京第一ホテル松山で開催し、65名の参加となりました。

総会は、17時から加藤弘正会長(52年卒)の挨拶の後、樟樹会妹尾会長から100周年の



報告とこれからに向けてのお話がありました。その後、議案審議に移り、会計報告等承認されました。

17時半から、51年卒の有馬浩二氏(株デンソー社長)に「新居浜と私」のテーマで(株デンソー)の紹介、新居浜の思い出等を熱く楽しくお話しいただきました。

全員で記念撮影後、懇親会では、恒例の太鼓台のDVDが流れる中、司会は、福徳氏(51年卒有馬氏と同期)による元気な司会のもと、玉井校長から近況報告、有馬氏による元気がでる乾杯をしていただき、皆様の自己紹介、ビンゴゲームを実施し、皆さんで、お互いに近況報告をしながら、楽しい時間を過ごしました。

最後に、新居浜西高校歌斉唱後、加藤令史副会長(51年卒)により、懇親会を締めくくりました。

次回は、2年後(令和3年11月)に三重大学の藤田達生教授(52年卒)をお迎えして開催する予定です。松山にお住いの同窓の皆様はぜひご参加ください。

記 近藤 良一(昭和63年卒)

東日本樟樹会からのお知らせ

幹事会決定事項として、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年の総会を中止といたしました。

来年の総会は令和3年6月6日(日)に開催と決定しております。

同期会 陣

あれから半世紀弱、時には昔の話をしよう!

高齢者仲間入り記念同期会

白石 研 一(昭和47年卒)

テーマは『おめでとう65歳。まだまだ60代。』全員満65歳を迎え、社会的には高齢者の仲間入りとなった令和元年8月に同期会を開催しました。

プロログでは、西高時代・卒業25年記念・同30年記念・還暦記念同期会と、撮影された各時代の写真を眺めながら、「歳をとったのは事実だが、歳を重ねて味わい深くもなっているよね!」とお互いのヴィンテージぶりを確かめました。

続くオープニングは、50の手習いならぬ60の手習いで、新たにサクソとピアノを始め同期生2人の校歌演奏でスタート。

この2人以外にも、現在の趣味を出席者に訊いてみると、ずっと合唱を続けている人、日曜画家や桜の追っかけ旅人。スポーツ系ではゴルフやスキー、パラグライダーにハマっている人など、なかなか多彩。

そこで「同好会結成!同好者募集!」と題してその人たちを紹介するとともに同好の士を募るなど盛り上がりました。



早速ゴルフ同好会が結成されたようで、同期生コンペが開かれたとか。他にも新たな同好の輪が広がれば...

最後は、結成されたばかりの軽音&合唱同好会のリードで出席者全員で校歌斉唱。その勢いのまま、ほとんどの出席者が二次会に。やっぱり、まだまだ60代。まだまだ若い!我々同期生。

2020同期会 お品書き

鴻 上 照 美(昭和58年卒)

『なっちゃんのお品書き弁当』がいろいろな報道番組で話題となっている。今回はなっちゃんのパバの愛情あふれるお品書き風に同期会を紹介したい。

『お品書き2020年1月3日 2回目』

今回は、計画委員を増員し、内容を深める飲み会7回。ただ、飲んで食べてばかりじゃないよ。改善点は、名札、座席、クイズ、土産などいろいろ。みんな考えて。自分のために、みんなのために!そして、予定どおり、計画どおり同期会が始まった。100名近く参加。その中にはお忙しい中、ご参加くださった恩師3名も含まれている。



新潟から参加のよっちゃん(変わったない)の乾杯でスタート。今回は1年時のクラスでのテーブルであり、遠い遠い記憶を辿りながらの会話。失礼にも

先生と間違われる人も、本当にお許しください状態。そんな中でもプログラムは進む。3名の先生方へのクイズ。「あのころは、は！」今だから話せるエピソードで先生方も懐かしくお話をくださった。次に初参加の自己紹介を終え、全員で校歌斉唱！元野球部による校歌斉唱はよかった。最後にバイク野郎基二の閉式の辞。ここに集えるのはお世話してくる人がいたからというお言葉。やつてよかった。ありがとー！

今回の同期会も本当に楽しかった。次回は2025年、我ら還暦。みんなでお祝い。これでお品書きはおしまい。では、また。

普通科昭和60年卒業同期会

星 加 啓 子 (昭和60年卒)

卒業して30年の節目に初めて学年全体の同期会を開催してから5年。令和2年1月2日に再び開催の運びとなりました。前回よりも少し参加者は減りましたが、それでも全国から約100名がリーガロイヤルホテル新居浜に集いました。恩師は出席予定の2名が急遽ご都合により欠席、菅仲明先生お一人の参加となりましたが、大いに盛り上がりました。度々会う人、5年ぶりの人、35年ぶりの人、状況は様々ですが懐かしい顔ぶれに話は尽きることなく、予定の3時間はあっという間に過



ぎ去りました。準備してくれていた余興チームも十分力を発揮する時間がなくなるほどで申し訳なかったので、次回さらなるパワーアップを期待しています。午後1時に始まった会は、その後二次会、三次会、四次会と午前1時を過ぎ、約12時間にまで及びました。また、今回120名を超えるLINEグループを立ち上げることができたので、5年後の次回はもっと楽に案内ができ、さらに参加者を増やしていけることと思っています。

いつも幹事にお礼の言葉をいただきますが、参加者あつての同期会、すべての方に感謝です。今後ともよろしくお願ひします。今回出席を楽しみにして下さっていた青野武先生が4月にご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

平成29年度卒業生成人式記念同期会

能 瀬 敦 成 (平成30年卒)

令和2年1月13日(月)、ユアーズにて、平成29年度【創立100周年】卒業生の第1回学年同期会を開催しました。

私たちが卒業した年は西高創立100周年という記念すべき年であったこともあり、ステージ上の看板には卒業年度だけでなく、思い出の「創立100周年」の文字も入れました。当日は180名以上の卒業生に加え、当時の村上校長先生をはじめとする多くの先生方にもご出席いただきました。新年早々のお忙しいなか、本当にありがとうございました。

西高を卒業して以来、このように大勢で顔を合わせるの初めてのことであり、初めは互いにどことなく緊張していました。しかし、

当時3年3組の三上君の乾杯で一気に緊張が解け、高校時代の話を咲かせ始めると、誰もがあの頃に戻ったような気分になり、同期会は大いに盛り上がりました。数年後には多くの者が実社会に出ます。会場では、近況のみならず、夢、そして不安や迷いも含めて大学卒業後のことも話していました。そんな中、先生方には、身の引き締まる励ましのお言葉もいただき、みんなが勇気づけられていました。また、終盤には、創立100周年記念映像も再上映しました。現役時代とは違った目線で見るにつけ、自分たちは特別な年に卒業したのだということ、改めて新居浜西高等学校の素晴らしさも感じました。

今回の同期会は大盛況のうちに終わりました。私たちが西高を卒業してはや2年の月日が経ち、今回の同期会はその流れのはやさを実感した日でもありました。今後私たちは各々の道を歩み、活躍の場によっては、より遠く離れるかも知れませんが、でも、また再びみんなでこの場所に集い、親交を深め続けていきたいと思っています。

最後に、この度の開催につきまして、ご尽力くださった各方面の方々にご心より感謝申し上げます。報告とさせていただきます。ありがとうございました！



編集後記

マスクを着けて外出することが日常となり、ソーシャルディスタンスをとり、人にも自分にも配慮することが当たり前の時代となりました。働き方にもリモートワークなど大きな変化が現れています。

会誌「樟樹」31号は多くの人々のご支援をいただき、いつものように楽しい記事が集まり、内容の充実したものが出来上がりました。母校の「今」と「昔」を楽しんでいただけること請け合いです。

これからも諸先輩方のご教示を大切にしながら、皆様に寄り添った会誌作りを目指します。今後、取り上げて欲しいことや、知りたいことなどございましたら、どのようなことでもお知らせください。

- 委員長 石川美千子 (昭47普)
副委員長 鴨 裕子 (昭49普)
委員 武田 信之 (昭28普) 織田 文生 (昭60普)
近藤 司 (昭42普) 藤澤 真美 (昭63普)
近藤 博司 (昭44普) 越智 孝司 (平2普)
畑田 雅敬 (昭44普) 近藤 尚稔 (平10普)
妹尾 次郎 (昭55普) 日野 愛子 (平12普)
安藤 寛和 (昭58普) 鈴木 雅大 (平16普)

発行所 樟樹会
〒792-0024
新居浜市宮西町4-46

発行者 妹尾 次郎
編集者 石川美千子
印刷所 株式会社サラト
発行日 令和2年7月15日

表紙題字… 檜崎 一光老師
表紙写真… 大久保直幸氏 (昭和44年卒)
大久保フオトス

